

ツネ♡グ

#26
2026年10月号

皆さん、こんにちは。

今年は東日本大震災から15年という節目の年です。9月24日、キューアンドエースタジアムみやぎでのキリンチャレンジカップ2026の試合前に「FUTURE LEGACY MATCH in MIYAGI 2026」を開催しました。震災の記憶と教訓、そして復興への思いを次世代へつなぐべく、日本代表OB・OGを中心とするチームと震災の年に生まれた宮城県内のU-15選手のチームで対戦し、私も出場しました。この日のために業務の合間を縫って準備をしてきたつもりです。われわれも真剣モードでしだし、15分ハーフながら終わると足が張っていたくらいなかなかハードでした。スタンドもかなり盛り上がっていたように感じました。

近年、全国各地において地震や豪雨など自然災害が続いています。防災意識や、支え合いの大切さについて考える機会を創出する意味においても、「FUTURE LEGACY MATCH」のような試みを定期的にやってみたらどうか、とあらためて思った次第です。

キューアンドエースタジアムみやぎには、2002FIFAワールドカップ、トルコ代表とのラウンド16以来、実に24年ぶりに訪れました。どのようなスタジアムだったか、だいたい記憶が薄れていたのですが、整列してスタンドを見渡した瞬間にいるんなことが思い出されてちょっと感傷的にもなりました。

FIFAワールドカップ2026を終え、SAMURAI BLUE(日本代表)にとって新たなスタートとなったウルグアイ代表との試合は、後半アディショナルタイムに勝ち越しのゴールを挙げて3-1で勝利しました。28日にエディオン

ピースウイング広島で行われたベネズエラ代表との試合でも後半アディショナルタイムにPKを決めて2-1で勝利しています。

国際親善試合でも公式戦同様、最後の最後まで勝負にこだわる姿勢がますます強くなっているように感じています。来年1月に開幕するAFCアジアカップサウジアラビア2027で優勝するという意識、FIFAランキングを上げていくという意識がチームからは伝わってきます。新しい力を融合させながら、チーム力をさらに高めていってほしいと思います。

9月26日にはJFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」にて2026年度リスペクトシンポジウムを開催しました。「審判員とのリスペクト」をテーマに置く中、中高生年代のユース審判員が指導者や観客から暴言を受けたという具体的な事例の報告もありました。

審判なくして試合はできません。もちろん、判定に対して疑問を感じたり、異なる意見を持ったりすることはあるでしょう。しかし、それが審判へのリスペクトを欠いた言葉や態度につながっていいわけではありません。特に育成年代では、若い審判員も安心してピッチに立てる環境を、サッカーに関わるすべての人でつくっていく必要があります。セーフガーディングの観点から、審判へのリスペクトが当たり前になる環境をつくっていかねばなりません。そのためにも、JFAとしてしっかりとメッセージを発信していくつもりです。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮市恒靖



会長の活動報告

2026年8月21日～9月17日(抜粋版)

8/25(火)

Jリーグ理事会(Jリーグ)

8/26(水)

WEリーグ理事会(JFAハウス)

9/1(火)

日本サッカー殿堂掲額式典(blue-ing!)



澤穂希さん、田嶋幸三さん、今西和男さんの3名が新たに日本サッカー殿堂に掲額されました。それぞれの時代、それぞれの立場で日本サッカーを前に進めてきた皆さんの功績を称え、その思いを次の世代へつないでいく大切さをあらためて感じました。

9/2(水)

JFA・JBA・JHA・JRFU・JSBB・JSPO
スポーツ団体連携に関する共同記者発表
(JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE球技場)



競技の垣根を越え、子どもたちのスポーツ環境を支える取り組みを始めました。さまざまな競技に触れ、スポーツを好きになる子どもを増やすことが、サッカーをする・見る・支える仲間を増やすことにつながります。多くの仲間とともに、日本サッカー、そして日本スポーツの未来をつくっていきます。

9/8(火)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

9/10(木)

H.E. Mrs. Victoria Eugenia FRANCOLINO
Slepek 駐日ウルグアイ大使が来局(JFAハウス)



1930年の第1回FIFAワールドカップを開催し、初代王者となったウルグアイ。2030年大会では100周年を記念する試合も予定されています。サッカーを通じた両国のつながりや、これからの交流について意見を交わしました。

H.E. Mr. Francisco TENYA HASEGAWA
駐日ペルー大使が来局(JFAハウス)

多くの日系人が暮らすペルーと日本には、長い歴史の中で培われてきた深いつながりがあります。そうした人的な交流を大切にしながら、サッカーを通じて両国の関係をさらに深めていく可能性について意見を交わしました。



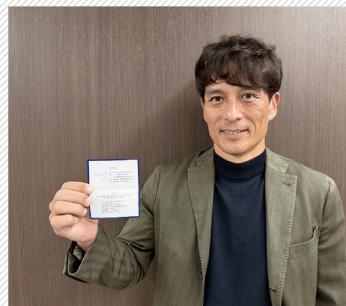
9/11(金)

WEリーグ・クレディセゾン パートナー契約締結記者会見
(blue-ing!)



長年、日本サッカーを支えていただいているクレディセゾンさんが、新たにWEリーグのパートナーに加わりました。WEリーグをもっと多くの人に知ってもらい、観てもらい、応援してもらう。その広がりを女子サッカー全体の成長につなげていきます。

JFAウェイ職員研修(blue-ing!)



JFAの職員が一堂に会し、「JFAウェイ」についてあらためて考える研修を行いました。JFAウェイとは目指す姿や行動指針をまとめたもので、職員全員がカードとして携帯しています。大切なのは、その理念を知るだけでなく、日々の仕事の中で実践すること。部署や立場が違って、目指す方向を共有し、それぞれの力を持ち寄ることで、より良いJFA、日本サッカーの未来をつくっていきます。

9/17(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2026年度第11回理事会が9月17日(木)にJFAハウスおよびオンラインで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。



決議事項

「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を改正

Jリーグによるトレーニング補償金(アマチュアからプロ)の増額の決定を踏まえ、規則を改正することが決議されました。近年の育成環境の変化、国際ルールとの金額差の拡大を鑑み、現行の2〜3倍の水準に引き上げます。また、法人格のない任意団体については、所定の確認手続きを経ることを条件に、トレーニング補償を金銭で受領できるよう制度を見直すことにしています。なお、「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」の関連規定についても、法人格のない任意団体を対象に同様の改正を行うこととしています。

2027年度の9地域/47都道府県サッカー協会向け一括補助金交付上限額

2027年度の47都道府県サッカー協会(47FA)および9地域サッカー協会向け一括補助金の交付上限額を決定しました。47FA向けの交付上限額は17億7,401万678円(前年度比974万4,202円増)、9地域FA向けは3億5,105万5,000円(前年度比765万円増)としました。47FA向け補助金は登録者数や地域特性などを踏まえて算定し、人材採用・育成支援も継続します。9地域FA向け補助金は、全日本大学フットサル大会の所管変更に伴う見直しを行う一方、新たにU-18女子リーグへの補助を追加し、引き続き各地域でのサッカーの普及・育成活動を支援します。

「Jリーグ降雪エリア施設整備助成金」への提出の件

Jリーグが対象として定める降雪地域のクラブに対し、「Jリーグ降雪エリア施設整備助成金」を通じて、JFAが総額20億円、1クラブ当たり最大1

億5,000万円を助成することが決まりました。助成対象期間は2026年から10年間で、全天候型施設をはじめとする練習環境の整備を支援し、Jリーグのシーズン移行後も公正かつ円滑な競技運営を支えることを目的としています。対象クラブや助成内容の詳細については、Jリーグが定める「Jリーグ降雪エリア施設整備助成交付金要綱」に基づいて運用されます。

報告事項

審判員への誹謗中傷に対する「審判リスペクト」の取り組み

審判員に対する誹謗中傷やSNS上での過度な批判が社会的な課題となる中、JFAは「審判リスペクト」の取り組みを開始しました。審判員が安心・安全に活動し、成長できる環境づくりを目的に、ユース審判員を起点とした施策を展開します。具体的には、ユース審判員リスペクト・ワッペン の導入や、指導者養成との連携による啓発活動、競技会における映像やポスター、場内アナウンスを活用した発信、リスペクトシンポジウムなどを通じた普及活動などを実施。サッカー界全体で審判員への理解と敬意を深めることで、より良い競技環境の実現を目指します。

国民スポーツ大会サッカー競技の実施種別変更

2031年の第85回奈良大会から国民スポーツ大会のサッカー競技を少年種別に特化し、成年種別を実施しないことが正式に承認されました。あわせて、少年種別の参加人数およびチーム枠も拡大されます。本件は、JFAが育成年代の競技機会をより充実させることを目的に公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)に要望していたもので、8月20日に開催された国スポ委員会で承認されました。

Information

フィジカルフィットネスの基礎を学べるプログラム「JFAフィジカルフィットネスラーニング」をスタート

JFAは、全国のサッカーファミリーを対象とした新たな学習プログラム「JFAフィジカルフィットネスラーニング」を開始します。本プログラムは、フィジカルフィットネスに関する基礎知識をオンラインで学べるもので、ウォーミングアップやリカバリー、ケガや熱中症の予防、女子選手へのサポートなどを幅広く学ぶことができます。指導者やドクター・トレーナーなどのメディカルスタッフだけでなく、保護者やサッカー未経験者、他競技に携わる方も受講可能で、選手一人ひとりがケガを予防し、年代や競技レベルに応じてより良いパフォーマンスを発揮できる環境づくりを目指します。 ※9/1発表

JFA×ANA価値共創活動「JFA第50回全日本U-12サッカー選手権大会 応援企画 produced by TEAM BLUE」を開催

JFAは、JFAメジャーパートナーのANAと協働し、「JFA第50回全日本U-12サッカー選手権大会 応援企画 produced by TEAM BLUE」を開催します。期間は12月26日(土)〜29日(火)の3泊4日で、全国から募集する小学生5チーム・計50人を鹿児島で開催される全国大会に招待し、交流サッカーや「夢の教室」特別編を実施します。また、今大会から新たにサッカー教室も開催し、子どもたちに特別な学びと交流の機会を提供します。交流サッカーには松井大輔さんが参加、「夢の教室」特別編では徳永悠平さんが夢先生を務める予定です。 ※9/16発表

その他の主なニュース

- ・令和8年熊本地震における「クラウドファンディング」を開始(8/21発表)
- ・熊本地震復興応援プロジェクト「JFA×キリン ビッグスマイルフィールド」の開催延期が決定(8/21発表)
- ・JFA第50回全日本U-12サッカー大会 ビックカメラと「U-12トップパートナー」契約を締結(8/27発表)
- ・アディダス×JFA共同プロジェクト「HER TEAM」 2026年度募集開始。6年間で全国37都道府県に102チームが誕生(9/1発表)
- ・JFA第50回全日本U-12サッカー選手権大会 コールマンと「U-12カテゴリーパートナー」契約を締結(9/2発表)
- ・【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHIコメセンサーキット2026」第4回「夢の教室」を9/10、11に静岡県浜松市で実施(9/3発表)
- ・キリンカップサッカー2026開催記念トークイベントを9/12にJFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で開催(9/4発表)
- ・「育成年代応援プロジェクトJFAアディダスDREAM ROAD」2026年度短期留学第3弾 初のブラジル・CRフラメンゴへ4選手が短期留学(9/7発表)
- ・なでしこジャパンの狩野倫久監督と大場朱羽選手が9/9に掛川市役所を表敬訪問(9/8発表)
- ・「審判交流プログラム」メキシコより審判員を招聘(9/9発表)
- ・JFA×(みずほ)「BLUE DREAM みらいスクール」を11/1(日)に石川県で初開催(9/9発表)

「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2026」

REPECT
大切に思うこと

JFAは9月1日〜30日の1カ月間をリスペクト・フェアプレーの強化月間とし、リスペクトシンポジウムやリスペクトアウォーズ、フォトコンテストなどさまざまな取り組みを実施します。また、Jリーグ、WEリーグ、なでしこリーグ、Fリーグなどの関連団体とも連携し、JFA主催の国内競技会でも呼びかけを行うなど、サッカー界が一丸となってリスペクトの活動を推進します。 ※9/17発表

大会・試合・イベントにおけるリスペクト・フェアプレー宣言、リスペクト旗の掲揚

全国各地でリスペクト旗の掲出やリスペクト宣言を通じてリスペクトやフェアプレーの意識を醸成

キリンチャレンジカップ2026で「リスペクト宣言」を実施

キリンチャレンジカップ2026(9/24宮城、9/28広島)でSAMURAI BLUEおよび対戦国のキャプテンがそれぞれ試合前にリスペクト宣言を実施。試合終了後には選手がリスペクトバナーを持ってグラウンドを一周

キリンチャレンジカップ2026でのリスペクトブースの出席

来場者がリスペクトフラッグに自身の宣言を書き込める企画を実施

リスペクトシンポジウム

9月26日、「審判員とのリスペクト」をテーマに、JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」とオンラインで基調講演やパネルディスカッションを実施

リスペクトアウォーズ2026

「事業・取り組み部門」には全国から27件の応募があり、一次選考を通過した12件を対象に一般投票を実施。リスペクトシンポジウム終了後の表彰式で大賞などを発表



JFA 競技運営部
国内グループ

JFA コミュニケーション部
放送映像グループ

貝塚大和さん 窪田俊彦さんを

ダブルマンマーク!



動画も
公開中!

天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会と皇后杯JFA第48回全日本女子サッカー選手権大会の決勝が2027年元旦、MUFGスタジアム(国立競技場)で開催されます。第26回は競技運営部国内グループの貝塚大和グループ長(写真中央)、コミュニケーション部の窪田俊彦部長(兼放送映像グループ グループ長)とともに、15年ぶりの同日開催が実現した経緯と意義を語ります。

2027年元旦、天皇杯、皇后杯が同日開催 “サッカーっていいな”と思ってもらえる日に

宮本 まずは各所とうまく連携しながら実現にこぎつけてくれたことに感謝します。自分が同日開催案を提案しただけでなく、職員みんなにもそういう願望があったように感じます。ただこの調整は簡単ではなかったと思う。

貝塚 女子サッカーを盛り上げていくためには、やはり皇后杯決勝と天皇杯決勝を元旦にMUFGスタジアムで同日開催することで、来場者や放送の視聴者を含め、多くのファンに観ていただくことが一番だとわれわれも考えました。今年の年明けから動き始めて、調整には半年以上かかりましたね。

窪田 ステークホルダーにはJFAの決断を基本的に応援、支援していただいています。(同日開催は)いいアイデアですね、と言っていた中で、私のところ言うと、放送していただくNHKさんと話し合う必要がありました。皇后杯、天皇杯ともにとなると1年の中でも在宅率が高いであろう元旦に、4〜5時間の枠をサッカーに充てていただくことが可能かどうか。話し合いを持ちながら、決断していただいたことに感謝しています。

宮本 女子サッカーを盛り上げるという話をしてくれたけど、多くのファンにその魅力を伝える良い機会になることは間違いないですね。

窪田 昨年の皇后杯決勝の放送では入場の際に選手の表情を大きく映し、名前も表示してもらえたので、視聴者の方も覚えやすかったのでは、と感じました。

宮本 競技運営の貝塚さんとしては、調整にあたって難しい面はありましたか。

貝塚 まずは1年間の競技カレンダーをつくる中で、天皇杯と皇后杯の決勝を2027年1月1日に設定し、そこまでの日程をどう組んでいくか。Jリーグ、WEリーグ、JFL、社会人、大学など各団体と調整していかなければなりません。良い日程というのはマーケティングそのものですから、希望が重なることも多いんです。放送局の事情もありますし、話し合いを重ねながら調整していきました。また試合当日の話で言えば、皇后杯決勝と、天皇杯決勝の間をできるだけ縮めたい。1枚のチケットで両決勝を観戦できるのに、試合の間が空きすぎてしまうと1試合目の皇后杯決勝から来てもらえない可能性もある。そういった調整をするのも、競技運営部の業務になります。

宮本 放送映像グループとしては天皇杯と皇后杯をNHKさんを通じて多くの方に視聴してもらうには、どのようなアプローチを考えていますか。

窪田 心掛けているのは放送局の希望をどれだけ叶えられるか。ここが一番大切だと考えています。われわれの目的はサッカーの普及であり、一人でも多くの方に観ていただくこと。もちろんこう見せたいという思いはあるにしても、多くの方に観ていただくことに24時間向き合っている本職の方をリスペクトすべきだと思います。

宮本 プロの意見に耳を傾けるというのは、確かに大切な姿勢ですね。

窪田 NHKさんがやりたいことに対しては、それこそ競技運営部やチームとの調整も必要になってきます。全ての要望を100%叶えることは難しいとはいえ、両者の間に立ってウインウインに持っていきたいですね。NHKさんにも視聴者や来場者の皆さんにも、そしてチームや選手たちにも喜んでもらい、みんなが良かったと言えるようになればいいと思っています。

宮本 みんなに喜んでもらい、元旦の同日開催を継続してやっていけたらベスト。まずは2027年1月1日、青空の下、たくさんのお客さんにスタジアムで、また、たくさんの方に放送を通じて観てもらいたい。女子は来年、ブラジルでFIFA女子ワールドカップがあり、男子はシーズン移行した中、初めてシーズン半ばで決勝を開催することになります。1年の良いスタートになればいいし、サッカーを楽しんでもらい、“やっぱりサッカーっていいな”と思ってもらえるような日にできたらいい。貝塚さん、窪田さんにはこれからもそれぞれの立場でサッカーの魅力を伝えてほしいと思っています。

貝塚大和(かいづか・やまと)

1984年4月16日生まれ。東京都出身。上智大学法学部卒業。
新卒で損害保険会社に入社し、企画業務と営業を経験した後、2015年4月にJFA入局。競技運営部で女子サッカー、フットサル・ビーチサッカー担当を経て、天皇杯を担当。現在は同部国内グループ長として、天皇杯をはじめとするJFA主催の各種国内大会を統括。

窪田俊彦(くぼた・としひこ)

1985年2月20日生まれ。神奈川県出身。明治大学商学部卒業。
有料放送局に入社し、制作、マーケティング、営業を経験したのち、2017年8月にJFA入局。放送・映像関連業務に従事し、2026年より放送映像グループ長とコミュニケーション部長も兼務している。休日は長男の小学校卒業を機にサッカーコーチを引退し、現在はO-40のチームでプレーを楽しんでいる。

※次号は2026年11月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

